令和７年度 高志中学校２年 「高志学」５月校外研修

１　期　　日　５月１５日（木）

２　場　　所［A組］(AM) SAVA!STORE・株式会社 Hacoa

［B組］(AM) ゼットクリエイト株式会社武生工場・越前千代鶴の館

［C組］(AM) KOROGI・紅屋紅陽堂

［全組］(PM) うるしの里会館

４　参加生徒　８６名

５　報　　告

２年生の５月研修では、丹南地区のものづくり企業を訪問し、オンリーワン企業としての伝統と革新について学びました。生徒たちは事前研修として、各企業がどのような問題を抱えており、それをどうやって乗り越えているかについて、仮説を立ててから訪問しました。

午前中はクラスごとに別々のエリアに分かれ、研修を行いました。

A組は河和田地区の SAVA！STORE と株式会社 Hacoa を訪れました。SAVA！STORE には、福井でつくられたデザイン性とストーリー性の高い商品が並んでいました。作り手と使い手を繋ぐ「伝え手」でありたいと、素材の特徴、製造工程、使い方や作り手の思いを丁寧に伝えることを大切にしているとお話を伺い、生徒たちも大事な人に贈りたいものを考えながら見学することができました。株式会社 Hacoa は、お盆や重箱などの漆を塗る前の木地を作る木地職企業でしたが、ライフスタイルの変化に合わせ、時計やボールペン、USB メモリさらにはキーボードなど普段私たちが使うものを木材で作っていました。加工は大変だけれど、木の質感や木目の美しさを生かしたデザインの商品を作ることで、そこに価値を見出すお客様に喜んでもらえているとお伺いし、生徒たちも実際手にとった時の感触に魅了されていました。

Ｂ組はまず、ゼットクリエイト株式会社武生工場に訪問しました。創業７２年という武生工場では、野球用品のうち４品目のオーダー品を生産する別注対応工場として稼働していることを学びました。木製バットの材料や性質について丁寧な説明を受けた後、バットの製品削りから塗装、マーク印刷の工程まで、一連の製造過程を間近で見学しました。また越前千代鶴の館では、越前打刃物のはじまりから現在の「伝統的工芸品」とはどのようなものかのご説明を受けた後、二枚広げという越前打刃物独特の技法について、伝統工芸士の方による実演を見学しました。案内の方が打ってすぐの刃物を実際に手の近くに持ってこられた時には、その熱さに驚きました。

Ｃ組は、株式会社 KOROGI と紅屋紅陽堂を訪問しました。株式会社 KOROGI では、マリンバやビブラフォンの製造過程を丁寧な説明を受けながら見学しました。木材の保管から調律まで数多くの工程があることを知り、実際に木材の重さを実感したうえで、マリンバの音も聞かせていただきました。機械化が進んでいても、人の手で作られている工程もあり、木材の選定にはコストをいとわないなど高品質へのこだわりがわかりました。紅屋紅陽堂では、表具店の仕事内容や油団の特徴や製造の難しさをお話しいただきました。そして、年月が経つにつれ変化する油団の色を見たり、実際にさわり心地を体感したりもしました。最後に話された、「床の間にはその家の大切なものを飾るように、自分にとって大切なものや言葉を見えるようにすることが大切」というメッセージが印象的でした。

クラス別フィールドワーク後は、うるしの里会館に集まり、思い思いに昼食をとった後、絵付け体験を行いました。越前漆器の蒔絵師の方から説明を受け、手鏡、写真立て、小判盆の中から一つ選び、下絵を写したあと、筆で描きあげました。筆使いに苦心しながらも、金色や銀色を使って蒔絵のように仕上げることができ、生徒たちは満足そうでした。

お天気にも恵まれ充実した研修でした。事後学習では、企業への提案やポスターづくりをしていく予定です。